

## 20. <知識、見識、胆識>

最近、記憶力の低下に我ながら愕然とすることがあります。広辞苑には掲載されていないのですが、胆識という言葉があります。

この言葉は、知識、見識、胆識とセットで語られることが多いようです。

広辞苑によると知識とは、ある事項について知っていること。また、その内容。物事の正邪などを判別する心のはたらき。知られている内容。認識によって得られた成果。厳密な意味では、原理的・統一的に組織づけられ、客観的妥当性を要求し得る判断の体系となっています。つまり、知識とは、本を読んだり人の話しを聞いたりして得られるものが知識のようです。

また、見識とは物事の本質を見通す、すぐれた判断力。また、ある物事についてのしっかりした考え、見方となっています。つまり、見識とは、自分自信の経験によって得られるものが見識のようです。

これに対し、胆識とは、何かを決定し行動しようとする、必ず反対意見が出ます。その決定によって不利益を被る人が必ず阻止しようと反対します。しかし、自分が正しいと信じやり遂げなければならないと決心した事は、実行する。反対意見に流される事無く、正しいと信じた事をやり遂げる力が胆識だそうです。つまりいくら多くの知識を持っていても、いくらすばらしい見識を持っていても胆識がないと何も始まらないということになります。

話は変わりますが、最近の JS での職員での会話ですが、「〇〇市からの△△技術委託に関する情報はどうなっているかな」「はい、その情報なら JWEB にあり、このようになっています」「そう．．．」。また、「△△技術は大丈夫なのかね」「はい、インターネットで調べた結果では、国内では××社や□□社が開発し◇◇市や\*\*町で稼働実績があります。また海外ではもう数年前から普及していて、良いという意見やいくつかの欠陥も報告されています」「そうか．．．」

現在 JS も情報システムの発達により大量の情報を持っています。調べれば調べる

ほど情報が出てきます。また、それに対する様々な立場の人の意見も検索できます。

しかし行動を起こすのは人間です。

ある技術をある自治体に導入しようとするとき最大限の知識と、最善の見識と、とことんまで付き合うという胆識を持って仕事をしたいのですが、なかなか難しいことですよね。皆さん如何でしょうか。

< 三品 文雄 >

※No. 23 号(2003/11/18)に掲載